

国立国会図書館月報

稀本あれこれ-469- 『神聖ローマ帝国議会・決議・制定法令大全』

特集 国立国会図書館の電子情報発信	・ 1
国立国会図書館データベースフォーラムの開催	・ 1
国立国会図書館の電子図書館サービス	= 植月 献二 ・ 2
データベースフォーラムに参加して	・ 6
フォーラムで紹介したデータベース一覧	・ 13
平成18年度書誌調整連絡会議を終えて	・ 14
平成18年度日本古典籍講習会	・ 24
生まれ変わった総合閲覧室	
一関西館総合閲覧室再配置を実施して一	・ 25

館内スコープ	・ 19
本屋にない本	・ 30
NDL news	・ 32
月例報告	・ 33
国立国会図書館の編集・刊行物	・ 33

<お知らせ>

常設展示のお知らせ	・ 19
平成19年度国立国会図書館職員採用試験の実施について	・ 20
国際子ども図書館展示会「大空を見上げたら-太陽・月・星の本」	
関連講演会のお知らせ	・ 34
NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索・申込システム) に	
『雑誌記事索引 科学技術編』 遡及データ追加	・ 35
NACSIS-ILL 経由・総合目録ネットワーク経由の複写・貸出しの	
申込中止について	・ 35
電子展示会「近代日本人の肖像」に128人の肖像を追加しました	・ 36
新連載がはじまります テーマは主題情報提供サービス	・ 36

3

2007

No. 552

国立国会図書館利用案内

東京本館 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331
利用案内 電話 03 (3506) 3300 (音声サービス)
電話 03 (3506) 3301 (FAXサービス)

関西館 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話 0774 (98) 1200 (音声サービス)
利用案内 電話 0774 (98) 1212 (FAXサービス)

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>

利用できる人 満18歳以上の方

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

開館日 月曜日から土曜日

休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日（第3水曜日）

所蔵資料 当館の所蔵資料は、納本、購入、国際交換、寄贈等によって収集され、東京本館、関西館、国際子ども図書館に分散して配置されています。

＜東京本館のおもな資料＞和洋の図書、和雑誌、洋雑誌（年刊誌、モノグラフィーズの一部）、和洋の新聞、各専門室資料

＜関西館のおもな資料＞和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

----- 東京本館のサービス時間 -----

開館時間 月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00

※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。

資料請求時間 月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00

※ただし、音楽・映像資料室、人文総合情報室特別コレクション、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。

即日複写受付 月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00

後日複写受付 月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

オンライン複写受付 月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30

----- 関西館のサービス時間 -----

開館時間 10:00～18:00 **即日複写受付** 10:00～17:00

資料請求時間 10:00～17:15 **後日複写受付** 10:00～17:45

セルフ複写受付 10:00～17:30 **オンライン複写受付** 10:00～17:00

※詳しくは当館ホームページをご覧ください。

kihon arekore

稀本茶札之札

(469)

『神聖口一々帝國議會・決議・制定法令大全』



銅版画入り略標題紙



標題紙

『神聖ローマ帝国議会・決議・制定法令大全』

本書は、1356年のニュールンベルク帝国議会から1654年のレーゲンスブルク帝国議会までの神聖ローマ帝国の全帝国議会（ライヒスターク）における決議と制定法令を収めた書物で、1660年にマインツで刊行された。

帝国議会は、皇帝が7人の選帝侯による選挙で選ばれる関係上、一つの都市に固定されることなく、神聖ローマ帝国領内の各都市で持ちまわりで開催された。それらの帝国議会で歴史上名高いのが、1521年にヴォルムスで開催された、いわゆるヴォルムス帝国議会で、マルチン・ルターが皇帝カール5世からの著書撤回の要求をはねつけ、「われここに立つ。神よ、われを助け給え。」と言明したことで知られる。また、1555年のアウクスブルクの帝国議会では、帝国内の諸侯がカトリックとルター派のいずれかを選ぶことができるという、事実上のプロテスタント容認の決定がなされた。これらの歴史上重要な帝国議会での決議も、本書に収録されている。

その後、帝国議会はドナウ河流域の交通の要衝であるレーゲンスブルクで開催されることが多くなり、1663年以降帝国議会の開催地はレーゲンスブルクに固定された。

本書に収録された、神聖ローマ皇帝カール4世の『金印勅書』（1356年）を始めとする各帝国議会の決議（Abschiede）や制定法令（Satzungen）は、16世紀に何度か公刊された帝国議会の議決・制定法令集にすでに収録されているものも多いので、史料を読む目的だけならば、本書以外のものでも事足りるであろう。しかし、本書収録の史料の中には、1529年のシュパイアー帝国議会における再洗礼派禁止に関する決議（本書210-211ページ）のように、今日でも学術論文に引用されているものもあり、本書の持つ学術的価値はいまだに失われていないようである。

本書にはいくつか異版があるが、ドイツ語圏の蔵書データベース（GBV、BVB、VD17）によれば、ドイツのビーレフェルト大学図書館、ハレ大学図書館とベルリンのドイツ国立図書館が、掲出本に近い版本を所蔵しているようである。

本書には増補版としてマインツで刊行の1692年版、フランクフルトで刊行の1707年版およびマインツで刊行の1720年版があり、各版本の所蔵館は次の通りである。

1692年版：九州大学図書館、バイエルン州立図書館、ミュンヘン大学図書館他9館

1707年版：北海道大学図書館、プロイセン文化財団ベルリン国立図書館他7館

1720年版：英国図書館、オーストリア国立図書館他2館

Aller dess Heiligen Römischen Reichs gehaltene Reichstäge, Abschiede und Satzunge[n]: sambt andern käyserlichen und königlichen Constitutionen, als Gülden Bull (Lateinisch und Teutsch) so dan die Religion= und Landfriedenen Policey... nunmehr auss den Originalien von newem collationirt, fleissig übersehen, mit unterschiedlichen noch nie in Truck aussgelassenen Reichs=Abschieden...vermehrht. Mäyntz, Nicolao Heyll, 1660. 1030, 101, 44 p.; fronts. : 33 cm. Rebound in quarter leather. (当館請求記号 YP1-45)

1979年購入。故 W. ウェーバー教授旧蔵書（本誌第217（1979年4月）号32ページ参照）。

特集 国立国会図書館の電子情報発信



昨年、当館が発信する電子情報を紹介する初の試みとして、国立国会図書館データベースフォーラムを開催いたしました。この特集では、データベースフォーラムの報告とともに当日の発表から一部抜粋して国立国会図書館の電子図書館サービスについてご紹介します。併せて、データベースフォーラムに参加していただいた有識者、図書館員の方にも感想を寄稿していただきました。

国立国会図書館データベースフォーラムの開催

平成一八年一二月七日（木）、当館東京本館において、国立国会図書館データベースフォーラム（NNDL）のデータベースを知る、活用する」が開催された。

このフォーラムは、当館が作成したデータベース／コンテンツを、担当職員が一堂に紹介するという初の催しであった。

当館では、国会会議録や法令索引を初めとする国会の情報、五、〇〇〇万件に及ぶ図書・雑誌の所在情報、貴重書や明治時代に刊行された大多数の図書のデジタル画像、各種情報を調査するための情報源など、膨大な量、また多岐にわたるデジタル情報をこれまでに集積し、発信してきた。このフォーラムは、必ずしも十分には知られていない、国立国会図書館作成のデータベース／コンテンツの内容、使い方、知っていると便利なヒント等を、デモンストレーションを交えながら紹介することを目的に企画したものである（フォーラムで紹介したデータベース／コンテンツの詳細は一三〇ページ参照）。

当日は三〇〇名近い参加者が来場。会場には国際交流基金と当館とで共催した日本研究情報専門家研修へ参加するため来日した海外一か国からの研修生の姿もあった。研修プログラムの一環として、フォーラムの聴講を取り入れたためである。

おもな参加者の内訳は、図書館員が五三%、研究職・技術職の会社員・公務員が一二%、事務職の会社員・公務員が一四%であった。

当日は、約二〇人の担当職員が、各データベース/コンテナツについて、システムの概要をまとめたスライドや検索等の操作を交えながら説明し、プレゼンテーション後に質疑応答も行われた。また、会場協のスペースに複数台のパソコンを設置し、参加者に、当館が発信する電子情報に直接触れてもらえるようにした。休憩時間、プログラム終了後に、フォーラムで抱いた疑問等を、担当職員に熱心に質問する参加者の姿も見えた。

四部で構成したフォーラムの第一部は「国会情報を活用する」と題し、国会会議録、帝国議会議録等、国政審議を調査するために有用なデータベースの紹介。第二部は、「図書館を使いこなす」と題して、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）、アジア言語OPACという当館所蔵資料の検索ツールの紹介と、和図書の総合目録である総合目録ネットワークシステムのプレゼン

テーションに充てた。第三部「ウェブ情報探索/発見術」では、情報の探索、調査に役立つデータベースやコンテナツを紹介した。最後の第四部では「広がるデジタルアーカイブの世界」として、当館の電子図書館事業のうち、資料をデジタル化し、インターネット上で公開しているデータベース、インターネット情報の収集、組織化、保存を推進する事業、複数のデジタル情報をワンストップで検索できるデジタルアーカイブポータル等について紹介した。

第一部から第四部まで、計六時間に及ぶ長丁場のフォーラムであったにもかかわらず、すべてのプログラムを聴講された参加者が大多数を占めた。当初、会場出入り自由を想定していたため、休憩時間を多くは設けなかった。今後の開催に向けて、運営上の課題が残った。

配布資料およびプレゼンテーション資料を当館ホームページに掲載しているので、ご参照いただきたい。（国立国会図書館データベースフォーラム）関連資料 <http://www.ndl.go.jp/publication/proceedings/index.html>

（総務部企画課）

国立国会図書館の電子図書館サービス

（情報化社会の中で）

今、大きく図書館界は動いています。インターネット

植月 献 二

が出現してからというものの、情報流通の方法が大きく変わり、インターネットの情報だけに依存する人々も出てきており、図書館や図書館員の在り方や存在意義すら問われる

ようになってきております。そんな中で、唯一の国立図書館である当館は、どのような役割を持つべきか。

翻って、図書館とは何か、図書館のコンテンツというのはどういうものであるべきなのか。

もちろん、「図書館とは」とひっくり返して論じることができるものではありません。公共、学校、専門図書館など、対象とする人々が違えば、提供する情報も備えるべき機能も異なります。

その中であって国立図書館はどうでしょうか。例えば、我が国の国立図書館である当館には、納本制度というものがあり、国内で出版物を発行した場合には当館に納入しなければならぬことになっています。およそ国立図書館というものは、その国の図書館の代表として、国民の知的活動の成果を広く網羅的に収集し保存し、末永く国民の利用に供するのです。しかし、利用すれば劣化するのが定めですから、利用と保存という矛盾した二つの課題を国立図書館は抱えていることとなります。

ここで図書館に関する基本的な設問を三つ用意したいと思います。図書館というのは、

- ・ どのような媒体を扱うべきなのか
- ・ どのような内容の情報を扱うべきなのか
- ・ どのように情報を提供すべきなのか

(どのような媒体を扱うべきなのか)

人間の意思の伝達や文化を支える手段や媒体は、時代によって変わってきました。原始においては音や動作から始まり、やがて石、粘土、植物、動物の皮、そして紙などの物質に記録されるようになりました。近代になると、その種類も多様化し、音声・画像も、蠟管、レコードディスク、CD、動画フィルム、ビデオ、DVDなどに記録されてきました。媒体の変遷はめまぐるしく、すでに廃れている媒体も多くあります。今後も技術は発達を続けるでしょう。伝達する情報は、これまでに加え、香りや手触りなど、人間の五感に訴えるさまざまな情報が記録され伝達されていくことになるのだろうと思います。

図書館は昔から物質に刻まれた記録を保存してきましたが、印刷技術が発明され沢山の複製、つまり出版という行為が広がってきたからは、その名が示すように、世の中に強い影響を与えてきた図書を中心に集めるようになったわけです。国立国会図書館も、設立された時点からは国立国会図書館法にしたがって国や国民の出版物を「公用あるいは文化財の蓄積」として収集保存してきました。これが納本です。そして、電子資料が出てくると、当館はビデオやCDなどのパッケージ系電子出版物も納本の対象に組み入れてきたのです。

しかし、媒体そのものは永久に蓄積保存提供することができません。文化的背景として記録媒体の保存は大事ですが、いつかは劣化により媒体そのものは使えなくなりませうなる前に内容情報の保存・提供を考えねばなりません。

また、媒体が異なれば同じ内容のものでも収集するべきでしょうか。今では、ひとつの著作が冊子体や、CDや、録音資料など、いろいろな媒体で出版され、インターネットでも発信されるなど、さまざまな公開がなされてきています。図書館はそれらすべてを収蔵する必要があるのでしょうか。

そして最後に、すでに社会基盤となっているインターネット情報はどうか。国が責任を持つてこれらを集めなければ、消えてしまいます。当館ではWARP（インターネット情報選択的蓄積事業）という事業でインターネット情報の一部を収集しています。情報通信技術やコンピュータ技術はどんどん変わりますから、データフォーマットなども新しく出現しては廃れていきます。したがって、将来にわたっても再現できるように、収集段階から保存に必要なシステム環境などの情報を記録して保存するための仕組みが必要です。当館は、そのようなシステムの構築を進めておりますが、当館単独でできることはそう多くはありません。関係機関の協力が大きな課題です。

ともあれ、図書館が、物理的な媒体だけに着目していればよいという時代は過去のものになってしまいました。

（どのような内容の情報を扱うのか？）

人間には、脳が備わっていますが、情報を蓄える器官としてはとても足りませんので何かに記録することになります。また、他の人とのコミュニケーションを図るためや、多くの人にメッセージを伝えるために、いろいろな方法によって意思を表出して伝達します。図書館は、一種の外部記憶装置であるといわれることがあります。では、人間の記録のすべてを、図書館に収納するのでしょうか。

昔からその時代の人たちは、今日までに、「重要な」記録を保存してきました。近代では、博物館や美術館、工芸館、公文書館そして図書館などにいろいろなものが収蔵されています。収蔵能力には限界がありますから、結局、何が重要な物か選別しなければなりません。

価値や蓄積される場所を考えずに列挙するならば、人類は、道具、美術工芸、彫刻、絵画、日記、書籍、雑誌、新聞、映画、ゲーム、ビデオ、音楽、ニュース、ブログ、電子メールなど、いろいろな物や情報を生成してきました。その中には、世界でただひとつしかないものもあれば、複製物を沢山つくって頒布したものもあります。これらに対する価値評価も様々です。書籍の出版においては、一定の価値判断が行われます。しかし、今日のウェブサイトでは極めて低いハードルで簡単に発信が行われています。それはインターネットの大きな利点である一方で、内容の信憑性が問

われています。

私的な情報か公開情報であるかの違いもあります。

ともあれ、これらを保存することを考えてみると、いささか乱暴ですが、ひとつしかないオリジナル作品で価値ありというものについては、博物館や美術館などに収蔵される傾向にあり、一方、図書館には、主として世の中に影響を与えた複製物つまり出版物を、その時代の記録として蓄積し提供してきたと言えるのではないのでしょうか。

さて、問題のインターネット情報は、玉石混交といわれながら、重要な社会基盤になっており、良くも悪くも世の中に影響を与えています。また私的な情報や違法なものも存在しています。それらのうち何を、未来の利用者のために国として保存していくのが当館の重要な課題です。

これが、図書館に求められているコンテンツは何かというところで、最終的には国立の図書館の責任というものが問われるのだと考えられます。さて、最後の設問です。

(図書館はどのように情報提供すべきか?)

情報通信技術が、保存すべきさまざまな情報を生産する一方で、その技術そのものが図書館の情報提供のありようにも大きな影響を与えるようになってきました。

つい数年前までは、「国立国会図書館は使いにくい」といった声を良く聞きましたが、最近は遠隔利用サービス

や来館利用サービスの改善などの努力を評価していただき、激励の言葉に変わってきているような印象を受けています。

努力の成果をこのフォーラムで説明させていただくわけですが、これらは、四年前の関西館開館を契機として本格的に始めた遠隔利用サービス、電子図書館サービスです。ひとつしかない国立国会図書館だからこそ、みんなが使える図書館にしていきたいと頑張ってきた成果です。

そのサービスは、遠方からでも、

- ・ 当館が何を所蔵しているかが判る
- ・ デジタル化された蔵書を閲覧できる
- ・ 資料情報に到達するための支援情報が得られる
- ・ デジタルとして生成された情報コンテンツが保存され閲覧できる

ということです。加えて、当館の持つ情報だけでなく、他のデジタルアーカイブの情報をも横断して一元的に検索し、ワンストップで情報を得ることができるところを目指したデジタルアーカイブポータルというサービスも紹介させていただきます。

当館は今後も、リモートアクセスに対してのナビゲーション・案内に力を入れてまいります。

(うえつき けんじ 総務部企画課電子情報企画室長)

フォーラムの充実・発展への期待

大庭 一郎

データベースフォーラム開催の意義

平成一二(二〇〇〇)年以降、国立国会図書館(NDL)のホームページを通じて、NDL作成のデータベースや情報源(以下、DBと総称する)が、積極的に一般公開・提供されるようになった。これらのDBは、NDLホームページの利用者によって、多様な調査研究を進める際の重要な情報源として利用されるだけでなく、図書館員が自館のレファレンスサービスを展開する際に、必須のレファレンス資料として活用されている。さらに、大学教育では、図書館情報学教育の講義・演習を始めとして、調査研究法に関する専門科目や情報リテラシー関連科目を通じて、NDLのDBの利用方法が教えられるようになってきた。

近年、NDLのDBの種類は急速に増加しており、すでに公開されたDBの場合でも、収録範囲や収録内容が拡大し、検索方法や利用方法の変更が生じている。各種のDBには、利用の手引き、利用方法、ヘルプ等が整備されているが、DBを利用する多様

な利用者に対して、DBの効果的な活用を支援する配慮(工夫)が求められる段階に来ている。

昨年一二月七日に開催されたデータベースフォーラムは、NDL作成の二〇種類のDBについて、担当職員が計六時間に渡って一般利用者(三百人)向けに紹介するという初の企画であった。NDLのDB利用の普及・推進を図る上で、時機を得た画期的な試みであり、NDLの歴史においても重要な足跡となる第一歩であったといえよう。

今後のデータベースフォーラムに対する期待

データベースフォーラムは、優れた企画であったが、初の試みであったため、説明内容と実施準備の点で少し物足りない面があった。六時間で多数のDBを均等に紹介した結果、一部のDBについては、説明時間が不足していた。さらに、DBの説明が盛り沢山であるにもかかわらず、当日の配布資料の記述内容が不十分であったことは、参加者として非常に残念に感じた点である。関連資料は、一二月一五日にホームページに掲載され、閲覧可能になったが、

今後のフォーラムでは、参加者に配慮した配布資料の作成を希望したい。フォーラムを定期的に開催し、DBの説明資料と説明方法が整備・蓄積されていくならば、それらをふまえて、冊子体の刊行、DB化、遠隔学習教材の作成等を行うことも可能である。フォーラムを企画する際は、複数会場での開催（東京本館と関西館）、利用対象別のテーマ設定（例…図書館職員）も検討する必要があるであろう。

NDLには、有益な情報源を継続刊行してきた優れた実績がある。『国立国会図書館所蔵国内逐次刊行物総目次・総索引一覧 平成七年一月末現在』（一九九五）のような既存刊行物のデータをDB化し、提供・更新することも検討していただけると幸いである。

（おおば いちろう 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科講師）

国立国会図書館データベースフォーラムに参加して

「テーマ別調べ案内」への期待

和田 孝子

一二月七日、国立国会図書館で行われたデータベースフォーラムに参加した。二〇のデータベースが紹介され、たいへん密度の濃い一日だった。特に「テーマ別調べ案内」は、都立図書館のレファレンスサービスによく利用しているため、興味深く聞かせていただいた。

数年前までは「テーマ別調べ案内」をプリントアウトして係内で回覧していたが、カテゴリーもタイトル数も増えたこともあり、今は必要に応じ検索する機会が多くなった。昨年の三月まで所属してい

た社会科学係では、ビジネス支援サービスを展開していたこともあり、図書、年鑑、雑誌、関連したサイト等を広く案内している経済・産業分野のテーマをよく利用した。都立図書館で受け付けたレファレンスの中から、「テーマ別調べ案内」を活用した事例を紹介したい。

（一）調査の手がかりとして利用したケース
業界動向のレファレンスを受けた場合は「業界動向の調べ方（シェア、ランキング等）」にある資料のほか、『日本マーケットシェア事典』等を順次調

査する。業界団体が持っているデータを効率的に調べるときには、「食品産業について調べる」にある「食品産業に関する主要インターネット情報源」が便利だった。

(2) 都立未所蔵の資料の案内に利用したケース

都立図書館では未所蔵の場合、所蔵を確認してNDLを紹介することは多い。加えて、「科学技術」の「テクニカルリポート」のように、概要や所蔵確認の方法も含めた探し案内がある場合は、このことも利用者で紹介している。

(3) 調査方法の一つとして紹介したケース

この事例が最も多い。

一例を挙げると、漢詩の原文のレファレンスを受けた際に「アジア関係資料」の中の「漢詩の口語訳、

書き下し文」を紹介している。

こうしたレファレンスサービスでの活用以外に、職員研修の資料や選書の参考資料として使うこともある。また、新タイトルがアップされると、都立図書館でもよく質問されるテーマであれば係内で回覧し、うちには来ない質問の場合は国会図書館の利用者層との違い等を話題にしている。

インターネットが使える環境にあれば、「テーマ別調べ案内」に限らずNDLの提供するデータベースはいつでも、誰でも利用できる時代になった。無料で利用できることに感謝しながら、さらなる充実を期待している。

(वाद) たかこ 東京都立中央図書館サービス部
情報サービス課資料相談係主任)

国立国会図書館データベースフォーラムに参加して インターネットと図書館司書の役割

長谷川一ツケール 正子

平成一八年一月二七日の午後、国立国会図書館内館長室では黒澤館長、関係者を前にして海外一か国から集まった一二名の研修生たちが緊張した面持ちで並んでいた。国際交流基金との共催で実施さ

れる、日本研究情報専門家研修の始まりである。カリキュラムには、東京本館での研修の最終講義が、一二月七日に開催される「データベースフォーラム」への自由参加として充てられていた。

これは、国立国会図書館が作成したデータベース・コンテンツの紹介と実演を担当職員がする、というもの。合計で二〇のデータベースが紹介された。その中でも、印象に残ったものはD n a v iとW A R Pであった。

前者はインターネット上の深層ウェブのゲートウェイサービス、後者は選択的蓄積事業、つまり死んでゆくホームページを選択的に収集・保存するもの。

「深層」という語と「選択」という語が私には妙に暗示的に響いた。納本制度から得られる情報を基にデータベースが作成されるのであるが、流通経路にのらない出版物は、いくらかもある。同人研究誌など、深層に埋もれるいわゆる灰色文献を収集するには、どうしたらよいか？隠れたところで、意外に重要な文献があったりする。一方、溢れる出版物の中で、信頼に足る良質な図書を選択することで、司書の力量が問われたりする。

紙媒体から電子媒体、インターネットと、情報を得る手段の幅は格段に広がった。それぞれに長短がある。たとえば、近代デジタルライブラリーで図書を参照した。図書自体の紙の質、色を確認したかったのだが、画面上では詳細は把握できなかった。やはり、紙媒体が必要だ。迅速に書誌所在情報を知り

たい時などは、データベースが威力を発揮する。紙媒体の目録を何冊か検索しているよりは、ずっと速い。情報の交通整理、どこにどんなデータベースがあるのか、何を使ったら有効かを知っているのも司書の仕事だ。

ところで、この研修で、近世史料を扱う講師とサブカルチャーのウェブサイトを扱う講師とが奇しくも同じことを言われた。大衆文化に依拠する情報ほど、収集・保存が難しい。当たり前のことだが、目からうろこがおちる思いをした。前者は江戸時代、明治時代の、後者は現代の、消費され捨て去られる情報のことをいつている。百年単位の尺度で考えれば、これらの情報は、その時代の風俗史料を知る一級の学術文献になったりする。情報に対して深層にあるものを掘り起こす、何が良質か、何が本質か、その質を保証するための検証作業をする、この重要性を学んだ。

この研修、このデータベースフォーラムに参加したことで、得たものは測り知れない。こうした機会を与えてくださった、関係者の皆様方に深謝いたします。

(はせがわーそけーる まさこ フランス国立ギメ
東洋美術館図書館司書)

❖ 電子展示会 (<http://www.ndl.go.jp/jp/gallery/index.html>) 平成10年6月1日～
 国立国会図書館の所蔵するユニークな資料の画像を中心に、解説やコラムなどを加えテーマ別に編集したインターネット上の展示会。「日本の記憶」という総合テーマのもとに、主に日本の歴史と文化に関する資料を展示している。

❖ 絵本ギャラリー
 (<http://www.kodomo.go.jp/gallery/digi/index.html>) 平成12年5月5日～

テーマごとに資料・情報を選択的に収集、編集加工したデジタル画像による電子展示会。内外の貴重な絵本の画像を国立国会図書館で編集し、絵本の発祥から今日までの発展の流れをデジタルコンテンツで紹介する。



❖ 児童書デジタルライブラリー
 (<http://kodomo4.kodomo.go.jp/web/ippangz/html/TOP.html>) 平成15年4月1日～
 国立国会図書館で所蔵している昭和30年以前刊行の児童書の一部について、すべてのページをデジタル画像で閲覧できる。

❖ 児童書総合目録 (<http://www.kodomo.go.jp/resource/search/toc.html>)
 平成12年5月5日～
 国立国会図書館のほか、日本国内で児童書を所蔵する主要類縁7機関が所蔵する児童書・関連資料の所蔵を検索できる。児童書の受賞情報や解題情報などもあわせて提供。

❖ デジタルアーカイブポータル (プロトタイプシステム)
 (<http://www.dap.ndl.go.jp/>)
 平成17年7月8日～

国立国会図書館および他機関が収集、保存、提供するデジタル情報を横断検索し、ワンストップで目的のデジタルコンテンツへアクセスすることができる。平成17年度からプロトタイプシステムを公開。



- *1：試験提供の開始は、平成11年1月19日
- *2：参加館への提供開始は、平成16年4月28日
- *3：参加館への提供開始は、平成16年4月1日
- *4：リニューアル提供開始は、平成17年6月1日

<フォーラムで紹介したデータベース一覧>

❖AsiaLinks –アジア関係リンク集–

(http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/asia/link/asia_05link.html)

平成14年10月7日～

アジアの各国・各地域の主要機関・団体とポータルサイトなどの主要サイトや、アジアに関するデータベースへのリンク集を提供。

❖アジア情報機関ダイレクトリー

(<http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/asia/directory/index.html>)

平成17年3月11日～

アジア関係資料やアジア言語資料を所蔵する国内機関の名鑑を提供。

| 第4部 広がるデジタルアーカイブの世界 |

❖近代デジタルライブラリー

(<http://kindai.ndl.go.jp/>)

平成14年10月1日～

国立国会図書館で所蔵している明治時代に刊行された図書約8万9,000タイトル、約12万7,000冊を収録した、日本における最大規模の画像データベース。



❖貴重書画像データベース

(<http://rarebook.ndl.go.jp/>)

平成12年3月22日～*4

国立国会図書館が所蔵する重要文化財を含む、江戸期以前の貴重な資料をカラー画像で電子化し、872タイトル、約4万1,000コマを提供。キーワードによる検索のほか、「和漢書」、「錦絵」、「絵図」および「重要文化財」からも探すことができる。

❖WARP (インターネット情報選択的蓄積事業) (<http://warp.ndl.go.jp/>)

(平成14年11月1日～)

インターネット情報を文化資産として保存し、提供する事業。現在、電子雑誌約1,500タイトル、約1,900のウェブサイトを集集、提供している。総ファイル数5,400万、総容量3.7テラバイトのデータの全文検索が可能。

❖ アジア言語OPAC (<http://asiaopac.ndl.go.jp/>) 平成14年10月7日～

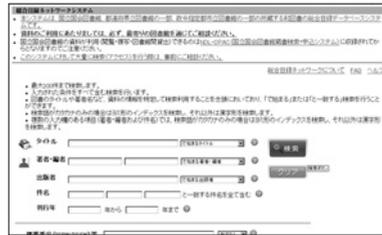
国立国会図書館で所蔵する中国語・朝鮮語で書かれた雑誌・新聞および1986年以降に整理した中国語、朝鮮語、モンゴル語、ベトナム語、インドネシア語、マレーシア語、アラビア語の図書が検索できる。

❖ 総合目録ネットワークシステム

(<http://unicanet.ndl.go.jp/>)

平成16年12月6日～*2

国立国会図書館、都道府県立図書館、政令指定都市立図書館等、全国の公共図書館が所蔵する和図書の基本書誌約860万件、総書誌約3,200万件を収める目録システム。



｜ 第3部 ウェブ情報探索／発見術 ｜

❖ Dnavi (データベース・ナビゲーション・サービス)

(<http://dnavi.ndl.go.jp/>)

平成14年11月1日～

インターネット上に存在するデータベースについて、約9,300件の書誌情報(メタデータ)を作成し、それぞれの入口までナビゲーションするシステム。



❖ テーマ別調べ方案内 (<http://www.ndl.go.jp/data/theme.html>)

平成14年10月1日～

テーマごと、あるいは特色ある所蔵資料群ごとに、調べるためのツール、関連する機関を紹介。



❖ レファレンス協同データベース (<http://crd.ndl.go.jp/>)

平成17年12月15日～*3

全国の図書館で日々行われている質問回答サービスの記録や、情報の調べ方の案内などを、データベース化して提供。情報探索のヒントを得るため、また図書館のレファレンス業務に活用することができる。

<フォーラムで紹介したデータベース一覧>

※ データベース名の後ろの（ ）はアドレス、日付は一般向けに提供を開始した年月日、件数等のデータはフォーラム開催時のもの。

| 第1部 国会情報を活用する |

❖ 国会会議録検索システム

(<http://kokkai.ndl.go.jp/>)

平成12年2月1日～*1

第1回国会（昭和22年5月）からの、衆・参両議院の本会議、委員会の審議内容の全文を収録。会議名、発言者名、発言中のキーワード等から検索。



❖ 帝国議会会議録

(<http://teikokugikai-i.ndl.go.jp/>) 平成17年7月1日～

帝国議会会議録の画像データベース。明治23年11月～昭和22年3月の全92議会のうち、現在は戦後分（第88回～第92回）を提供。戦後分については、画像情報のほか全文のテキスト情報からも検索可能。

❖ 日本法令索引(http://www.ndl.go.jp/horei_jp/housaku_top.htm)平成16年6月7日～

明治19年公文式施行以後の法令索引（現行法令・廃止法令・制定法令）と、第1回国会（昭和22年）以後の法案索引（法律案・条約承認案件）を検索できるシステム。法律案・条約承認案件については、法案を審議した際の国会の会議録の参照も可能。平成19年1月22日からは、日本法令索引 [明治前期編] として、慶応3年の大政奉還から明治19年の公文式公布に至るまでに制定された法令の索引情報も提供開始。

| 第2部 図書館を使いこなす |

❖ NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）

(<http://opac.ndl.go.jp/index.html>)

平成14年10月1日～

国立国会図書館所蔵資料の検索用データベース。和洋の図書（449万件）、和洋の雑誌・新聞（19万件）、国内外の博士論文（39万件）等を検索できる。雑誌記事索引（724万件）では、学術雑誌を中心とした国内刊行雑誌約1万6,000誌の記事を検索できる。



平成一八年度書誌調整連絡会議を終えて

「平成一八年度書誌調整連絡会議」を平成一八年一月三〇日、国立国会図書館（東京本館）において開催した。この会議は、国内の書誌調整および書誌データの標準化を図ることを目的に、書誌データの作成および提供に関する諸事項について関係諸機関と定期的に協議を行うものである。今回はIFLAソウル大会への参加報告等を交えながら、書誌データおよび書誌調整に関する国立国会図書館（以下「NDL」）および国内外の現状・課題等について、意見交換を行った。出席者は、関連諸機関の担当者および研究者一三名、NDL職員五名の計一八名であった（次頁参照）。

会議は、冒頭、那須雅熙書誌部長が開会あいさつを述べ、安嶋和代書誌部司書監の司会で進行した。議事の概要は次のとおりである。

【報告（一）NDLの書誌データの作成・提供―平成一八年度のおもな動き】

中井万知子（書誌部書誌調整課長）

NDLの書誌データ作成・提供は順調に推移し、NDL・OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）の収録件数は約一、五三五万件（平成一八年一〇月末現在）、『日本全国書誌』の収録件数は、平成一七年一年間で一五万八千件（二号平均三、一七二件）である。また、JAP

AN/MARCについては、平成一八年四月から二〇〇六フォーマットでの提供を開始し、音楽録音・映像資料を収録範囲に加えた。

遡及入力については、「平成一五年度以降のデータ遡及計画について」（通称「遡及計画二〇〇二」）に基づく作業を平成一七年度末に終了した。これを継承するものとして、平成一七年一二月には「平成一八年度以降のデータ遡及計画について」（通称「遡及計画二〇〇五」）をとりまとめ、今年度から作業を開始している。その中には雑誌記事索引科学技術編の遡及入力の継続を含む。

トピックとしては、まず「国立国会図書館件名標目表（NDLSH）」の改訂作業の終了がある。「をも見よ」参照（相互参照）による件名の関係付け、シソーラスの階層関係の導入「を見よ」参照の数を増やす等の改訂作業を平成一六年一月から開始し、平成一八年九月に終了した。NDLSHの付与作業についても、新しい主題への件名標目の新設を積極的に行う等、改善に努めている。

また、NDLSHはNDLホームページ上にPDFファイルで提供してきたが、平成一八年九月からTSV（[Tab Separated Value](#)）形式のテキストファイルの提供を実験的に開始した。調査研究目的の利用に限定し、申請を受けてテキストデータファイルを送付しているが、利用申請者

の研究内容としてXML化、検索システムへの組み込みの検討等が挙げられており、その成果を今後のNDLSHの提供方式等の検討につなげていきたいと考えている。

もう一つの動きとして、メタデータ基準の検討がある。

NDLは電子図書館事業への対応として、国際標準であるダブリンコア(<http://dublincore.org/>)を採用した「国立国会図書館メタデータ記述要素」(<http://www.ndl.go.jp/library/data/ndlmetapdf/>)を平成一三年三月に公開した。その後、平成一六年度に「電子図書館中期計画二〇〇四」が策定され、現在は次期電子図書館システムの構築に伴うメタデータの検討を行っている。今年度は、特に「NDLデジタルアーカイブポータル」の本格開発と連携し、平成一三年のメタデータ記述要素の改訂作業を行ってきた。現在、「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述要素(以下「DC:NDL」)の案を作成中であり、今年度中に確定する予定である。

『日本全国書誌』については、冊子体を刊行するとともに平成一四年四月からホームページ版をインターネットで提供しているが、冊子体の刊行は平成一九年六月末で終了することについて、現在調整を行っている。

国内外の全般的な状況として、書誌データ、特に図書館目録について、Webの検索エンジンとの対比からその問題点が指摘される等、その提供のあり方、表現の方法が問われている。図書館サービスやシステムに対する書誌データからの積極的なアプローチを今後とも進めていきたい。

平成18年度書誌調整連絡会議 出席者

相原 雪乃	国立情報学研究所
上田 修一	慶應義塾大学文学部教授
鏡 文子	東京都立中央図書館
粕谷 紳二	株式会社日販図書館サービス
金中 利和	日本図書館協会分類委員会委員長
金子 昌嗣	早稲田大学図書館
古賀理恵子	慶應義塾大学メディアセンター本部
柴田 正美	日本図書館協会件名標目委員会委員長、帝塚山大学心理福祉学部学部長・教授
永田 治樹	日本図書館協会目録委員会委員長、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授
藤田 章子	大阪府立中央図書館
宮澤 彰	国立情報学研究所情報社会関連研究系教授
吉田絵美子	株式会社図図書館流通センター
米澤 誠	東北大学附属図書館工学分館

(以上敬称略、五十音順)

(国立国会図書館)

那須 雅熙	書誌部長
安嶋 和代	書誌部司書監
中井万知子	書誌部書誌調整課長
原井 直子	書誌部国内図書課長
中山 正樹	総務部企画課課長補佐 (電子情報企画室)

【報告(二) NDLデジタルアーカイブポータルにおけるメタデータ】

中山正樹(総務部企画課課長補佐(電子情報企画室))
NDLデジタルアーカイブポータル(以下「ポータル」)は、デジタル情報として有用なコンテンツやサービスを案内するポータルサイトで、平成一七年度からプロトタイプシステムがインターネット上で利用可能になっている。

現在、NDLのコンテンツに加えて、他機関のサイト情報、電子化コンテンツ等一五種類のデジタルアーカイブを統合検索の対象とし、約五八〇万件のコンテンツが検索可能となっている。検索機能としては、キーワード検索、連想検索、NDC(日本十進分類法)による検索等がある。また、新着・更新コンテンツのRSS配信やキーワードランキング等も提供している。

ポータルのコンテンツを統合的に検索するためには、各機関で共通のメタデータ記述要素・通信プロトコルの実装が必要である。メタデータの共通仕様の一つであるダブリンコアについては、各機関のメタデータ交換の際にある程度統制ができるように、ダブリンコアに基づくDC・NDLを拡張して、ndldapという記述要素を定義している。このほか、データ提供元機関の実装可能性に依拠して、NDL側から最大限のメタデータ項目を含む仕様を提示する、逆に相手機関の仕様を可能限りポータルで受け入れる等、柔軟な対応をとる方向である。

今後は、冊子体の書誌データとデジタルコンテンツを関係付けること、デジタルコンテンツと冊子体の目録検索だけではなくレファレンス事例等のナレッジ情報も検索できるようにすること、メタデータの交換のほかWebサービス自体の連携を図ること等が検討課題である。

【報告(三) NACSSIS・CAT最近の動向】

相原雪乃(国立情報学研究所)

NACSSIS・CATにおける重複書誌の増加、担当者の目録スキルの低下等、現在課題となっている事項に関して二〇〇五年一〇月に最終報告がまとまった。また、次世代NACSSIS・CATの検討や多言語(中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語)資料等の遡及入力事業を進めている。

【報告(四)第七二回国際図書館連盟(IFLA)大会目録・書誌情報関係会議について】

原井直子(書誌部国内図書課長)

二〇〇六年八月二〇日から二四日まで韓国のソウルで開催されたIFLA大会の各セッションに参加し、UNIMARCセッションでは、日本語の文字種をJAPAN/MARCのUNIMARCフォーマット版でどのように扱ったかを報告した。初めてアジア各国の目録専門家が結集した点に意義を感じた(詳細は本誌五四九(二〇〇六年一二月)号を参照)。

【報告(五) 第四回国際目録規則に関するIFLA専門家会議(IMEICC4)】

① 永田治樹 (JLA目録委員会委員長)

IMEICC 4のねらいは、アラビア語圏を除くアジアの人々が集まり、それぞれの国・地域の状況を把握しつつ、図書館目録における書誌レコードや典拠レコードに関する標準化を推進するための新たな国際目録原則覚書(以下「ICP」)の検討を行うことである。

日本のカントリレポートとして、日本目録規則(以下「NCR」)一九六五年版以降の展開と、NCRとICPの類似点と相違点について報告した。用語集の「controlled access point」の明確化等、アジアからの提案を最終的に八つまとめ、次の会議のための投票にかけられることとなった。

これまで世界的にはAACR(英米目録規則)の原則とドイツの原則があり、いわば拮抗していたが、ドイツでもAACRが使われるようになってきたため、CJK(中国、日本、韓国)の目録規則の独自性が際立つようになっていく。今後は、CJKとして国際的に意見表明していく必要がある。



会議風景

② 宮澤彰 (国立情報学研究所教授)

ICPはFRBR(書誌レコードの機能要件)を元にパリ原則を完全に再構成するものになると期待していたが、今回のIMEICC 4の議論においても、目録をめぐる言及される「危機感」とは別に動いている面がある。

【コメント】

上田修一 (慶應義塾大学教授)

書誌コントロールに関係したこの一年のトピックを振り返る。

公共図書館の現状について、地域公共ネットワークの利用状況を見ると、図書館の蔵書検索・予約サービスの利用が最も多い。Webでの予約サービスによって目録へのアクセス数や資料の貸出数が増大し、公共図書館は地域の情報化において先進的な分野となっているが、このことはあまり理解されていないといえる。しかしその一方で、業務の省力化のために導入したはずの民間MARCCの購入費用までもが緊縮財政の自治体で問題になっている。

大学図書館に目を転じると、NACSSIS・CARTの目録データの品質低下に関して改善策が提案されたが、その中では資格認定制度が、動機付けという点から有望ではないだろうか。

国外の情勢では、目録の現状と将来に関する米国議会図書館の委託調査の結果であるカルホン報告 (<http://>

www.loc.gov/catdir/cathoun-report.html.pdf)は、目録衰退、件名不要論を展開し論議を醸している。しかし、よく読むと典拠管理の必要性を指摘する等、目録作成の意義そのものに疑問が呈されているような内容ではない。

また昨今、現在のOPACは時代遅れとして、Web2.0を意識したOPACの改善提案がなされたりしている。しかし、連想検索機能を持つWebcatPlusよりも従前のWebcatのほうが使われているとのアンケート結果に見るように、OPACを改善したり、新しい機能を加えたりする方向はさほど支持されていないと言える。

GoogleはWebを平面的にとらえているが、目録においては各種資料(単行書・逐次刊行物・雑誌記事)や書誌と所蔵について、構造を無視して取り扱うことは難しい。今のところよい対応策が見つからない。

【意見交換】

全出席者から発言があり、OPAC、電子情報提供のあり方、目録作成の現状等、さまざまな状況や取り組みが率直に示された。

大学図書館の出席者からは、Web上の検索エンジンですべてを済ませることはできず、大学の学習・研究では目録と図書館資料が不可欠であり、その事実を伝える情報リ

テラシー教育が、今や大学図書館の重要な活動となっている等の認識が示された。

公共図書館の出席者からは、予算や人員が削減される中、目録作成にかける時間を縮小せざるを得ない上、目録作成のスキルを持った団塊世代の職員の一斉退職時期が迫り、スキル継続に苦慮している等の指摘があった。

民間MARCC作成機関の出席者からは、提供先の図書館の実情を把握しつつ、図書館システムのパッケージメーカーと連携しながら、より確実な書誌情報の提供を目指していきたい等の発言があった。

また、ポータルへのアクセス元とNDC付与状況、NDLSHの改訂基準等について質疑があった。

【まとめ】

第五回(平成一六年度に「件名標目の現状と将来」をテーマとして開催)の当会議でとりあげたNDLSHの改訂が終了したことを今回報告でき、当会議での議論が結実したことは成果であった。一方で、情報環境の著しい変化や財政逼迫という厳しい状況の中で、目録情報のあり方、その機能が問われている。業務の改善等の方策を模索し、活性化するため、今後も協議を続けていきたい。

(書誌部書誌調整課)

外国図書・特別資料課特別資料係では、国内で発行された冊子形態以外の単行資料の目録を作成しています（地図とアジア諸言語資料は除く）。その範囲は、電子資料（CD-ROM、DVD-ROM、MO、ゲームカートリッジなど）、録音資料（レコード、カセットテープ、CDなど）、映像資料（ビデオカセット、DVDビデオなど）、マイクロ資料、カード式資料（カルタ、トランプ、英単語カードなど）、静止画像（紙芝居、絵葉書、絵画など）、点字資料など、多岐にわたっています。

これらの資料はその形態の特色を反映して目録のとり方もそれぞれに違いがあり、バラエティに富んでいて興味深い反面、すべての資料の目録作成に習熟していくのは、なかなか困難なことです。

一番受入れの多い録音資料のCDを例にご紹介しましょう。この資料の目録の特色は、収録している内容作品の一覧や収録年月に関する注記が重要な識別要素であるということ



ところが！これらの情報が虫眼鏡が必要なくらい小さく表示されていたり、デザイン優先で読めない文字だったり、または派手に目立たせるために容器全体が玉虫色に輝き一〇秒以上見つめられなかつたりするのです。とにかく「目」を酷使しますので、仕事の合間には人目も気にせず怪しい動きのストレッツで頭痛、肩こり解消に励んでいます。

さらに、難解な造語・造文字や、アーティスト名なのかタイトルなのか区別がつかない単語などには苦労しています。また、クラブ系ミュージックに多くみられるミックス・リミックス・フィーチャリングなどの用語も、誰がどのように作品に関わっているのか特定しづらく、カタログが泣かせです。

とはいえ、「路傍の石ころでも採れと言われたら書誌を採るのがカタログ」というあるベテランの言を座右の銘にして精進している毎日です。

（書誌部外国図書・特別資料課

クリスタル・サイレンス）

常設展示のお知らせ

第一四七回「近現代の職人」

―ものづくりの歴史の中で―

平成一九年四月一九日（木）から

六月一九日（火）まで

於 本館二階第一閲覧室前（東京本館）

見事なできばえの工芸品を目にしたとき、ふと思ひ浮かべてしまう言葉に「職人芸」というものがあります。また、仕事が速く正確な人をたとえて「職人」という言葉が用いられるのを聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。

しかし、わたし達がいわゆる伝統的な「職人」の技を実際に目にする機会はかなり少なくなりました。それは、生産過程の機械化による職人の活躍の場の減少、それに伴う後継者不足等、近現代社会が職人にとつて厳しい時代であったことのあらわれでもあります。

第一四七回常設展示では、明治以降の近代化の流れの中でも、磨かれ伝え続けられてきた職人の技、そして最近の「ものづくり復権」の動向などを紹介します。

平成一九年度国立国会図書館職員採用試験の実施について

平成一九年度は国立国会図書館職員採用Ⅰ種、Ⅱ種、Ⅲ種、Ⅲ種（技術）の各試験が行われます。

〔組織と業務〕

初めに、国立国会図書館の組織と業務について簡単に説明いたします。

国立国会図書館は、昭和二三（一九四八）年、国立国会図書館法に基づいて設立され、立法院である国会に属しています。東京本館（東京都千代田区）、関西館（京都府相楽郡精華町）、国際子ども図書館（東京都台東区）の三施設が一体となって業務運営を行い、サービスの向上に取り組んでいます。現在の職員定数は九三四名です。

当館の業務内容は大きく三つに分けられます。

第一に、調査業務です。立法院に属する「国会図書館」として、国会議員の立法活動を補佐します。調査及び立法考査局が中心となり、国会議員等に対して、法案等の分析・評価、国政審議に係る政治、経済、社会各般の調査、資料提供等のサービスを行います。

第二に、司書業務です。当館は、日本で唯一の「国立国会図書館」として、内外の資料を収集、整理、保存し、後世に伝える責任を担っています。収集した資料をもとに目録、書誌、索引を作成・提供し、国会、行政・司法の各部門お

よび一般公衆に対する資料提供やレファレンス等の幅広い図書館サービス、さらに内外の図書館との協力活動等を行います。調査及び立法考査局の一部、収集部、書誌部、資料提供部、主題情報部、関西館（総務課を除く）、国際子ども図書館、支部東洋文庫で行っています。

第三に、一般事務です。調査業務や司書業務を円滑に行わせるための業務です。主に総務部、関西館総務課で行います。

次に施設ごとの特色をご紹介します。

東京本館は、国会議事堂の隣に位置しています。国立国会図書館全体の統括、国内外の図書館との連携協力の企画立案などを行っており、国会サービス、行政・司法各機関へのサービス、専門情報サービスの拠点となっています。納本制度等による資料の収集、全国書誌（我が国の出版の記録）の作成を行うと同時に、納本制度等により収集した資料、議会資料等の専門資料などの利用提供を行っています。

関西化学術研究都市に位置する関西館は、アジア情報の提供、来館およびインターネット申込みによる文献提供サービス、電子図書館事業、図書館協力等、情報化社会の進展の中でより高度な図書館サービスを進めています。

また、国際子ども図書館は、内外の児童書および関連資

料を広範に収集し、電子図書館機能を活用して情報提供を行う児童書のナショナルセンターとして、子どもの読書環境・情報提供環境の向上のため、内外の図書館および研究者への支援と子どもへのサービスを行っています。

〔平成一九年度採用試験からのおもな変更点〕

平成一九年度の職員採用試験での、おもな変更点をお知らせします。まず、Ⅰ種およびⅡ種試験の第一次試験の試験日を一週間程度、第三次試験および最終合格者発表を二週間程度繰り上げています。また、Ⅲ種（技術）試験を実施いたします。試験の日程は、平成一九年度国立国会図書館職員採用試験要領の概略をご覧ください。

〔よくある質問〕

最後に、職員採用試験に関して毎年多く寄せられる質問についてお答えいたします。

平成一九年度国立国会図書館職員採用試験要領（概略）

一 試験の種類

国立国会図書館職員採用Ⅰ種試験、Ⅱ種試験、Ⅲ種試験およびⅢ種（技術）試験

二 職務内容

Ⅰ種試験、Ⅱ種試験、Ⅲ種試験による採用者調査業務、司書業務、一般事務等の館務

新規職員の採用者数につきましては、基本的に欠員補充の形を取るため、毎年異なります。ちなみに、平成一九年四月の採用予定者数は、Ⅰ種二名、Ⅱ種一五名、Ⅲ種二名となっています。採用後は、国立国会図書館職員として一つの施設・業務にとどまらず、施設間を異動しながら複数の部局に配属され、広く様々な業務を経験していくことになります。

なお、試験案内および受験申込書の請求ならびに試験に関する問い合わせは、次のとおりです。

〒一〇〇・八九二四

東京都千代田区永田町一〇一

国立国会図書館総務部人事課任用係

電話 〇三（三五〇六）三三一五（直通）

〇三（三五八一）二三三一（代表）

内線 二〇四二〇

Ⅲ種（技術）試験による採用者

電気設備の設計、施工、維持管理等に係る業務

三 採用予定人数

Ⅰ種 若干名

Ⅱ種 若干名

Ⅲ種 若干名

Ⅲ種（技術） 若干名

四 官署および勤務地

東京 国立国会図書館東京本館

（東京都千代田区永田町一・二〇・二）

国立国会図書館国際子ども図書館

（東京都台東区上野公園二二・四九）

京都 国立国会図書館関西館

（京都府相楽郡精華町精華台八・一・三）

いずれの官署の職員も、国立国会図書館職員として、この採用試験により採用します。三官署が国立国会図書館として一体となった業務・サービスを行うため、官署間の異動、東京と京都の間の転勤があります。

五 受験資格

1 Ⅰ種試験 ア 昭和五三年四月二日から昭和六一年四月一日までに生まれた者 イ 昭和六一年四月二日以降に生まれ

た者で次に掲げるもの a 学校教育法による大学を卒業した者または平成二〇年三月までに卒業する見込みの者 b 館長が a に掲げる者と同等の資格があると認める者

2 Ⅱ種試験 ア 昭和五三年四月二日から昭和六一年四月一日までに生まれた者 イ 昭和六一年四月二日以降に生まれた者で次に掲げるもの a 学校教育法による大学を卒業した者または平成二〇年三月までに卒業する見込みの者 b 学校教育法による短期大学若しくは高等専門学校を卒業した者または平成二〇年三月までに卒業する見込みの者 c 館長が a または b に掲げる者と同等の資格があると認める者

3 Ⅲ種試験 昭和五九年四月二日から平成二年四月一日までに生まれた者で次に掲げるもの ア 最終学歴が学校教育法による高等学校、中等教育学校、短期大学若しくは高等専門学校を卒業した者または平成二〇年三月までに卒業する見込みの者（ただし、大学卒業以上の学歴を有する者および平成二〇年三月までに大学を卒業する見込みの者を除く。） イ 館長がアに掲げる者と同等の資格があると認める者

4 Ⅲ種（技術）試験 昭和五五年四月二日から平成二年四月一日までに生まれた者

ただし、右記1〜4とも、日本の国籍を有しない者および国会職員法第二条の規定により国会職員となることができない者は、受験できません。

平成一八年度日本古典籍講習会

平成一九年一月一七日から一九日の三日間、当館東京本館において、国文学研究資料館と当館の共催で、標記講習会を実施した。講習会には、公共図書館一〇名、大学図書館二二名、計三二機関三二名の受講生が参加した。

この講習会は、日本古典籍の整理・目録化を促進し、広

く活用されるよう環境の整備を図るために、各所蔵機関の図書館員等を対象として、書誌学の専門知識や整理方法の技術修得を目的に行っている。講義内容は、古典籍の基礎知識、出版と流通、目録やデータベースの作成、電子化、くずし字や蔵書印の読み方等、多岐にわたった（プログラムについては表参照）。

初日には懇談会も行われ、受講生は、自館の所蔵資料や、抱えている課題（未整理の資料、古典籍に通じた職員の退職等）について、意見交換を行った。また、二日目の保存の科目では、和装本の綴じ方の実習もあり、講習は和やかな雰囲気の中で行われた。

終了後のアンケートは、「広く見通せる内容で全体がわかった、今後業務に生かし、勉強したい」、「国文学研究資料館の先生の講義はどれも有意義だった」、「資料や、実際の書庫の管理の様子を見ることができて良かった」といった意見があり、好評であった。

（関西館事業部図書館協力課）

科目名	講師
1日目	
開講式・オリエンテーション	岡田三夫 主題情報部長
日本古典籍の基礎知識と問題点—日本古典籍書誌記述要領—	鈴木淳 国文学研究資料館副館長
国立国会図書館和古書目録の作成	主題情報部古典籍課整理閲覧係
国立国会図書館和古書目録の作成演習	同上
国立国会図書館古典籍資料室の見学	同上
懇談会	国立国会図書館（進行）
2日目	
和装本の取り扱いと保存	水谷愛子 収集部資料保存課和装製本係長
国文学研究資料館所蔵資料の概要	高島津雪 国文学研究資料館管理部事業課図書情報係長
国文学研究資料館和古書目録データベースの作成	増井ゆう子 国文学研究資料館管理部事業課専門職員
古典籍の基礎知識—絵画資料（草双紙と浮世絵）—	山下則子 国文学研究資料館教授
国立国会図書館での古典籍資料の電子化	幡谷祐子 主題情報部古典籍課保管係長
3日目	
近世の出版と流通	大高洋司 国文学研究資料館教授
くずし字の読み方	青木睦 国文学研究資料館助教授
蔵書印の見方・読み方—書物の伝来—	堀川貴司 鶴見大学文学部教授
国立国会図書館の古典籍資料書庫見学・資料紹介	主題情報部古典籍課保管係
意見交換・質疑応答	国文学研究資料館（進行）
閉講式	同上

生まれ変わった総合閲覧室

— 関西館総合閲覧室再配置を実施して —

関西館総合閲覧室では、参考図書や抄録・索引誌、主要な雑誌・新聞のほか、官庁出版物や法令議会資料、図書館情報学資料、全国の電話帳など、総計九万冊を超える膨大な資料を開架している。

社会科学、人文科学、自然科学の各分野を包含しているという点では、国立国会図書館唯一の閲覧室であると言える。三千㎡を超える広大な閲覧スペースを持ち、あらゆる主題領域を扱う閲覧室を使いやすいものとするためには、詳細なりサーチに基づく周到的な資料配置が不可欠である。

関西館では、これまで課題とされてきた総合閲覧室のより効果的な資料配置を実現するため、資料部文献提供課内に「総合閲覧室改革班」を編成し、平成一八年四月から本格的な検討を開始した。検討の土台としたのは、平成一七年度に実施した来館利用者アンケート、「関西文化学術研究都市内研究機関に属する研究者の情報行動パターンに関する調査」、および平成一七年一〇月～平成一八年六月の館内利用統計である。これらのデータを分析した上で、来館利用者の視点に立って配置を再考し、同年一〇月に再配置のアウトラインを決定した。さらに各書架の資料割付などの細部を固め、再配置作業を二月二七日夜間から開始、平成一九年一月五日までの実質四日間を終了した。

今回の再配置は、関西館開館以来初の全面的な模様替えである。従来の排架における問題とは何であったか。その問題をいかなる工夫によって克服しようとしたか。本稿では、再配置のポイントを四つに分けてご紹介したい。

■ポイント一■分野ごとの資料配置の再構成

図1(次ページ)の upper 部分が旧配置図である。

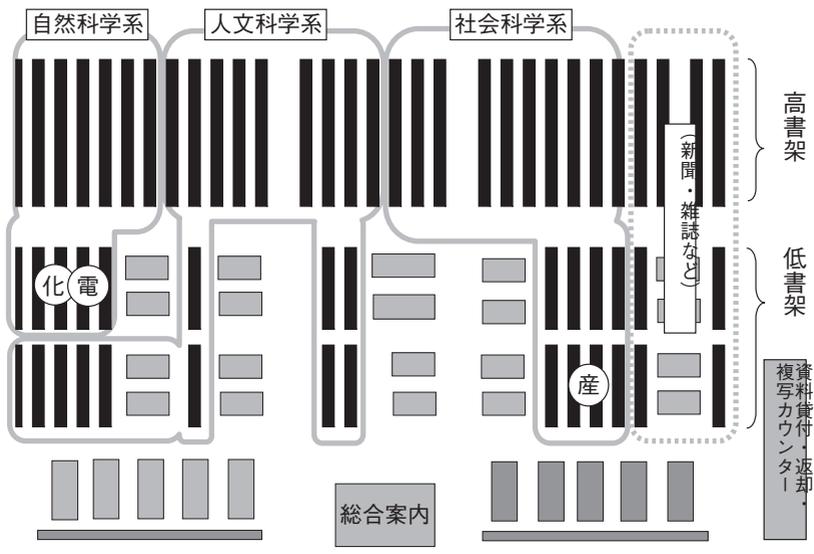
旧配置では、貸付・返却・複写カウンターに近い方から、社会科学系、人文科学系、自然科学系の順に資料が配置されていた。こうした配置は、おおむね『国立国会図書館分類表』(NDLC)における分類記号のアルファベット順によっていた。

NDLCは、その「表の構成と使用法」に示されているとおり、国立国会図書館の蔵書構成を反映して社会科学に重点を置き、分類体系の最初に位置付けている(A～Fで始まる記号が社会科学、G～KおよびUが人文科学、M～Sが自然科学に相当する)。

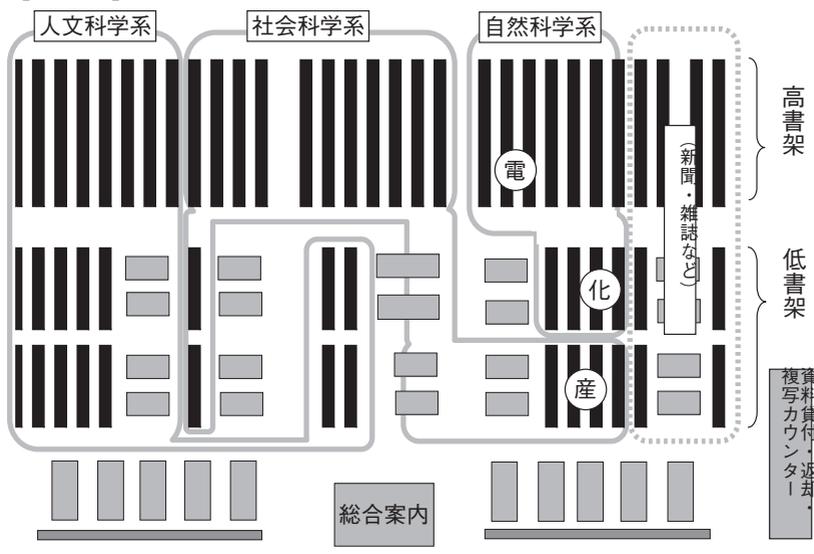
しかし、平成一七年度利用者アンケートの結果から、関西館で利用頻度のもっとも高い主題は「科学技術」であり、次いで「経済・産業」や「政治・法律・行政」であることが判明している。こうした実態をふまえ、再配置にあ

図1 新旧配置の比較(1) 全体構成／自然科学系・社会科学系の境界面／洋書の配置

【旧配置】



【新配置】



産…経済・産業 (D) 化…化学工業 (PA) 電…電子工学 (ND351)
 ■…書架 □…閲覧席等

たつては、図1(右ページ)下段の新配置図に示したように、まず自然科学系の資料を貸付・返却・複写カウンターの近くに展開し、それに隣接する形で社会科学系の資料を配置した。多くの利用者が、複写や書庫内資料の受け渡しをより手近な場所で行えるよう、配慮した結果である。

■ポイント二 ■「科学技術」と「経済・産業」の隣接

こうした分野ごとの再編に関連し、「科学技術」分野の資料と「経済・産業」分野の資料の配置には特に注意を払った。

たとえ同一の主題であっても、その主題を扱う観点が異なる場合、分類表では別々の記号が与えられ、排架場所が離れてしまう。

前述したように、NDLCは社会科学を重視しているが、その特色は、「産業」を「科学技術」(M)P)から分離して「経済」(D)と同一部門に置いた点にも表れている。そのため、たとえば同じ「化学工業」という主題であっても、技術的観点から扱っている場合はPAであるのに対し、産業としての化学工業を扱う場合はDL481)537となり、これらの分類記号をそのまま資料配置に適用した場合、排架場所は図1のように分散する。「電子工学」(ND351)と「電子機械工業・電子工業」(DL471)475)なども同様である。

また、もともと「科学技術」分野と「経済・産業」分野の資料には、工学・工業系を中心として一体的利用への二

ズが高い。そこで、新配置においては「科学技術」と「経済・産業」の両分野が近接するよう配置し、M)PとDの同時利用を可能としたのである。

■ポイント三 ■テーマ別コーナーの設置

今回の再配置におけるもう一つの主眼は、テーマ別にコーナーを設けたことにある。コーナーとして選定したのは、以下の一三のテーマである。

「医療」「薬」「建築」「技術動向」「環境」「災害・地震」「統計」「マーケティング」「会社録」「人物情報」「辞書」「地方史誌」「図書館情報学」

こうしたテーマをあえてコーナーとし、特に目立つよう配置した理由は、いくつかある。

①資料利用が多いテーマであること。

右に示したテーマの多くは、平成一七年一〇月〜平成一八年六月の館内利用統計をもとに選定した。これは開架資料の複写件数および書庫内資料の出納・複写件数を分類記号別に集計した統計で、どのような主題に利用者の関心が集中しているかを精査するための足がかりとなった。

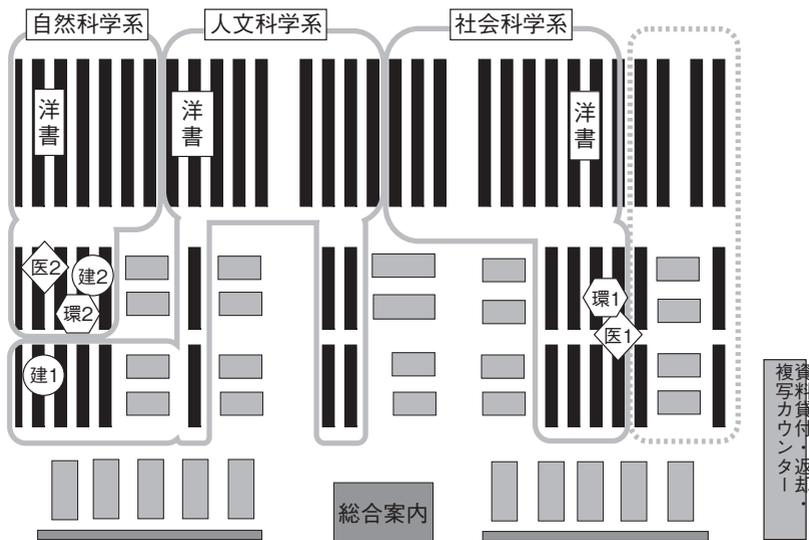
統計の分析結果から、利用頻度が特に高い主題として浮上したのが、「医療」「建築」「マーケティング」「地方史誌」などであり、これらについて明快な表示を行うことは「使いやすい閲覧室」にとって必須の要件と考えた。

②より積極的な利用を期待するテーマであること。

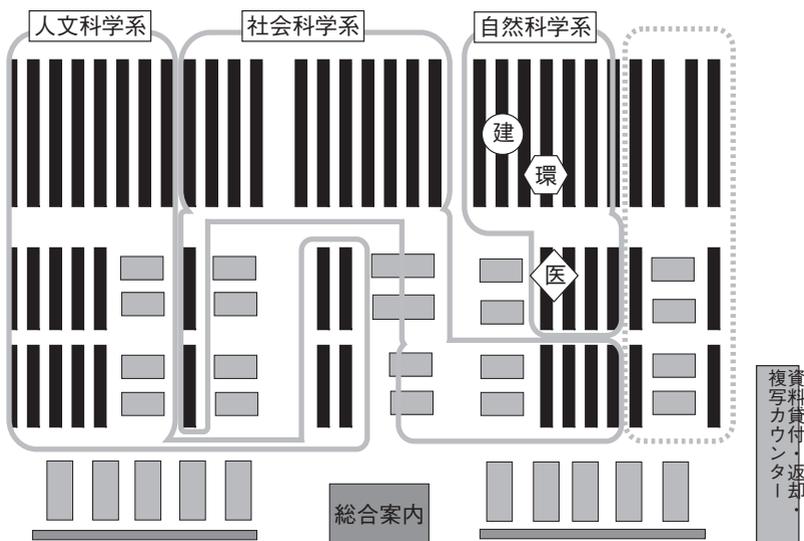
「図書館情報学」は必ずしも利用の多い資料ではないが、

図2 新旧配置の比較(2) コーナーの設置による分散→集中の工夫の例

【旧配置】



【新配置】



医 1…医療 (EG) 環 1…公害・自然保護 (EG 2 7 4～3 2 5) 建 1…建築 (美術的観点) (KA)
 医 2…医学 (SC) 環 2…都市工学・衛生工学 (NA 2 1 1) 建 2…建築 (工学的観点) (NA)
 ■…書架 □…閲覧席等

関西館の図書館情報学関係資料は充実しており、また総合閲覧室には関西館が所蔵する図書館情報学関係図書がすべて開架されていることから、利用の伸びを期待してコーナーとした。

③従来の資料配置では、配置場所が分散してしまうテーマであること。

「科学技術」と「経済・産業」の分離については、ポイント二で述べた措置によって解消されたものの、同一主題や関連主題の配置場所が離れてしまうという問題は、実は閲覧室内各所に点在していた。

一例として、「医療」というテーマについて見てみたい。NDLCにおいて、「医療」は「医学」(SC)から切り離され、社会保障(EG)の下に位置付けられている。たとえば「医療施設」という主題は、社会保障および経営の観点から扱っている資料であればEG231、設備・機能の観点から扱っている資料であればSC51となる。また、家庭医学書は、一般書の場合はEF32だが、簡略整理資料にはY75が付与される。簡略整理資料の分類はEF32に読み替えることで対応してきたが、「医療」と「医学」の配置は、図2(右ページ)上段に示すとおり分離していた。同じことは、「環境」や「建築」などについても言える。「環境」は「公害・自然保護」(EG274-325)と「都市工学・衛生工学」(NA211)とに分かれていた。また、「建築」の場合、美術的観点から扱う資料はKA、建築工学系の資料はNAとなり、これも排架場所は離れていた。

今回の再配置では、利用が比較的多く、かつ排架場所が分離している主題を洗い出し、それぞれについて資料の配置をひとまとめにした。そして、それらの主題が観点によらず特定箇所にとまとめて排架されていることを強調するために、コーナーとして表示を行うこととしたわけである。

■ポイント四 ■和洋圖書の混排

総合閲覧室内の書架は設置場所によって高さが異なり、入口から見ると手前に低書架、奥に高書架が配置されている。旧配置では、同じ主題でも言語によって排架場所が異なり、和書は低書架に、洋書は高書架に排列され、同時に通覧することができなかった。また、入口から遠い高書架は低書架と比べ、概して人が集まりにくく、結果として洋書は利用されにくかった。こうした事態を改善するため、新配置では同一主題のもとに和書・洋書ともに同じ書架に排列することとした。

以上の四つの観点から再配置を実施した結果、総合閲覧室の構成は従来の配置と比べて飛躍的に改善されたと自負している。しかし、総合閲覧室の改革検討はこれで終了したわけではない。関西館では、一月下旬から二月にかけて来館利用者を対象としたアンケートを実施したところであり、ここで集約した要望をふまえ、さらなる改善に結びつけていきたいと考えている。

(文責 関西館資料部文献提供課 主査 鈴木 智もき)

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さず、国内出版物を取り上げ、ご紹介いたします。

青梅線玉手箱 眠りからさめた鉄道資料

特別展

青梅鉄道資料調査会執筆

青梅市郷土博物館編・刊

(〒198-0053 東京都青梅市駒木町一・一六八四)

二〇〇五・一〇 九〇頁 B4

(DKK3H310)

JR青梅線は、立川を起点としてほぼ多摩川に沿ってさかのぼるように、拝島、青梅、御嶽、鳩ノ巣などを経て、終点・奥多摩に至る。このうち、立川から青梅までの区間は、沿線の住宅地としての開発が進み、都心方面から直通列車が終日運転されるなど、JR中央線と一続きとなった首都圏の通勤路線であ

る。しかし、青梅から先は一転して平地が狭まり、列車は、多摩川の河岸段丘上に敷かれたカーブが続く線路を山間に分け入るように入る。車窓には溪谷や周辺の山々の景色が展開し、御嶽、奥多摩などの駅は週末にはハイカーや観光客で賑わう。全長三七キロ余の比較的短い距離の中にこのような際立った対照を見せる線区は、全国でも類例が少ない。

青梅線の歴史は、一八九四年に立川・青梅間が開業した私鉄・青梅鉄道に端を発する。青梅鉄道は、沿線の日向和田（ひなたわだ）周辺で採掘される石灰石を既設の甲武鉄道（現JR中央線）に連絡する立川まで輸送することを目的に敷設された。後に、貨物輸送に加えて奥多摩方面への行楽客誘致を目的に旅客輸送にも力を注ぐようになり、段階的に路線延伸や電化（一九二九年に「青梅電気鉄道」と改称）などにより発展を続けたが、戦時中の国策に基づき一九四四年に国有化され、半世紀にわたる私鉄としての歴史を閉じた。

青梅鉄道開業から一〇〇年を迎えた一九九四年、地元の青梅市郷土博物館において「青梅鉄道一〇〇年展」が開かれた。その準備に際して、かつて青梅鉄道の本社社屋でもあった

現JR青梅駅舎の地下室から多数の会社関連資料が発見されたほか、国有化当時の社長が自宅に運び込み、木箱に保管していた資料の存在も明らかになった。これらは、一部がこの時の展示会に出展され、その後同博物館に寄贈されたが、一九九六年度から各専門分野の担当者によって構成された「青梅鉄道資料調査会」による調査が開始され、二〇〇四年度までに分類、目録作成、データ入力等の作業を終えた。そして、総数約二〇、〇〇〇点に及ぶ資料の一部（約二〇〇点）を展示する特別展「青梅線玉手箱―眠りからさめた鉄道資料―」が、二〇〇五年一〇月から翌年一月にかけて同博物館で開催された。本書は、この特別展の写真図録である。

展示資料は、会社の営業・組織、車両・運輸関係、戦時下の国有化、実現に至らなかつた戦後の払い下げ運動、石灰石をはじめ木材、砂利等の輸送、旅客誘致計画、バス事業、関連企業など広範にわたる。本書は、これを一三の主題に区分し、資料ごとに写真と簡潔な解題を付している。二〇、〇〇〇点の中から選別されたものであるだけに、いずれも興味が尽きない。中でも青梅鉄道にとって「生命線」とも言うべき石灰石輸送に関しては、

第一次世界大戦期のセメント・化学工業の発展による石灰石の需要急増に伴い、同社が所有していた採掘権を最大取引先の浅野セメントに譲渡した際に両社間で締結された採掘及び輸送契約書（一九二〇年）が、また、旅客輸送面に関しては、行楽客の利便を図るため鉄道省（現JR）電車の自社線乗入れによる新宿・御嶽間直通運転を実施するという、当時（一九三四年認可）としては画期的な企図に係る一連の文書などがある。これらは、同社の歴史上とりわけ精彩を放つ事績を今に伝えるものとして特筆に値しよう。

一方、資料の形態に着目しても、各種文書類はもとより、写真、図面、ちらし、絵葉書類など多種多彩で見応えに富む。この中には社旗、社章、各種公印など、青梅鉄道の存在を証明する展示物も含まれているが、「青梅」に因み梅花をかたどった社章は、当館の記章と実によく似たデザインである。

国有化に伴い、青梅鉄道の施設や車両は鉄道省に継承され、「青梅線」となった。このような経緯で戦時の混乱の中に消えた鉄道会社の資料が多数残されていたことは、その後経過した時日の長さを考えれば、稀有のことと言えよう。これらの資料は、二〇世紀前半

における経済・社会の激動下にあつて、地域の生活と産業を支え続けた私鉄の躍進と苦闘の足跡そのものであり、鉄道史の枠を越えて産業史、郷土史の貴重な財産でもある。本書を手にとると、今は遠い記憶となった青梅鉄道の歴史が詰められた玉手箱の封印が、六〇余年の歳月を隔てて解かれた思いである。

（吉川 浩太郎）

南座松竹経営顔見世百年記念史

永山武臣監修、「南座松竹経営顔見世百年」編集委員会企画・編集 松竹南座刊
（〒605-0075 京都市東山区四条通大和大路
西入る中之町一九八）
二〇〇六・二 二九六頁 B5
(KD11-H29)

約四〇〇年前、京都の四条河原で出雲の阿国が創始したかぶき踊りが、歌舞伎の起源だとされる。その歌舞伎発祥の地で、歌舞伎と共に四〇〇年近い歴史を刻んできた由緒ある劇場が南座である。

毎年冬の訪れを感じる頃、鴨川べり四条大橋のもと、破風造りの典雅な劇場の正面櫓下に、顔見世に出演する歌舞伎俳優の名前を連ねた招き看板が掲げられる。南座顔見世は、

単に恒例の歌舞伎興行というだけでなく、京都の歳末を彩る年中行事として広く人々に親しまれている。

顔見世は、翌年一年の一座の顔ぶれを披露する興行を意味し、江戸時代から各劇場で行われてきたが、京都以外ではその伝統が次第に廃れていった。明治三九（一九〇六）年、南座の経営に乗り出した松竹は、伝統をふまえながらも、豪華な顔ぶれによる大興行として顔見世を再出発させた。以来、南座顔見世は一年も途切れることなく、平成一七（二〇〇五）年に百年目を迎えた。松竹が毎年総力を結集する南座顔見世は、この百年間常に歌舞伎興行の中心にあり、歌舞伎興行の華であり続けた。南座顔見世百年の歴史は、近代歌舞伎の歴史そのものであるとも言える。

本書は、南座顔見世百年を記念して、百年間の興行記録等を松竹南座がまとめたものである。同じく松竹が編纂した『昭和の南座』（松竹刊、一九九一一一九九二、当館請求記号KD11-E13）に、昭和期の南座の全興行の詳細な記録が収録されている。それ以前の興行記録の概要は、堂本寒星著『南座』（文献書院、一九二九、当館請求記号774.2-D96m）

に記載がある。しかし、顔見世興行のみに
ついて詳細な記録を通覧できる資料は公刊
されていなかった。本書は今後、南座顔見
世の歴史を知る上で、欠かせない基本資料
となるに違いない。

本書は、百年間の各興行の記録資料が内
容の大半を占めている。他に劇場写真など
の図版や顔見世の概説・略史などが添えら
れているが、本書の真価は、専らこの編年
体の興行資料の部分に見出されるだろう。

興行資料の部分は、各興行について年代
順に、それぞれ見開き二ページの統一した
体裁でまとめられている。見開きは上下二
段に分けられ、上段は公演プログラムその
ままに、興行名、初日・千穉楽の日付、開
演時刻、演目名、幕数と場割り、おもな配役、
スタッフ・邦楽演奏者名が載せられ、各演
目・各幕の上演時間も付記されている。下
段には、公演時の話題や関連記事、休演・
代演情報、芸談・劇評の抄録、終演時刻、
観劇料金、舞台写真・錦絵、その年の古典
芸能関係死亡記事が記載されている。

この見開き二ページを見れば、その年
の顔見世が完全に再現できる。歌舞伎に
興味を持つ読者が是非とも知りたい情報、

ちよつと気になる情報が、二ページとい
う限られた紙面に凝縮されている。視覚的に
も大変わかりやすい。歌舞伎の楽しみを知
り尽くした人ならではの、心憎いばかりの
編集ぶりである。

また、例えば、興行日数や観劇料金の
変遷をたどる、同一演目の上演時間の違い
を比較する、下段記事を手がかりに当時の
社会背景を探るなど、さまざまな角度から
本書のデータや情報を活用することができ
る。歌舞伎好きにとって興味が尽きないだ
けでなく、調査研究用としても便利な一冊
である。

巻末には、各興行の招き看板、演目別上
演回数・上演年一覧、演目名索引なども付
されている。演目名索引は、本文に掲載し
た演目名で書き出されているが、演目の通
称も重複して項目に立っているなどの配慮があ
る。上演回数・上演年一覧と索引にわずかな
不備があり、誤植も何か所か見受けられ
るが、本書の価値に変わりはない。南座顔
見世百年の華やぎと重みを追体験できる、
またとない贈り物である。

岡村 志嘉子

当館の最近の動き - NDL news

韓国国会図書館との第四回 業務交流の終了について

一月二十八日から二月一日まで、
当館代表者がソウルの韓国国会図
書館を訪問し、第四回業務交流を
行った。訪問者は、中川秀空調査
及び立法考査局総合調査室主任調
査員および田中敏同社会労働課副
主査の二名である。

業務交流は二つのプレゼンテー
ション・セッションを中心に行わ
れた。第一セッションは「両館の
現状における課題」をテーマとし、
当館からは「国会サービスの指針」
および「第二次国会サービス基本
計画」の策定と実施状況について、
韓国側からは韓国国会図書館の組
織再編と期待される効果について
報告が行われた。第二セッション
は「高齢化社会対策」をテーマと
し、当館からは日本の高齢化の現
状と社会保障制度について、韓国
側からは韓国の高齢化の現状と高
齢者の投票行動について報告が行
われた。

詳細は本誌五五五(二〇〇七
年六月)号に掲載する予定である。

月例報告

おもな人事

防衛事務官 宮田 幸男
 国立国会図書館支部防衛省図書館長を命ずる
 防衛事務官 永田 明
 国立国会図書館司書に兼ねて任命する
 総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる
 以上平成十九年一月九日付け

判事 大谷 直人
 国立国会図書館支部最高裁判所図書館長を命ずる
 判事 小川 正持
 国立国会図書館支部最高裁判所図書館長を命ずる
 以上平成十九年一月十五日付け

警視長 岩瀬 充明
 国立国会図書館支部警察庁図書館長を免ずる
 警視長 小谷 渉
 国立国会図書館支部警察庁図書館長を命ずる
 以上平成十九年一月十九日付け

元職員に対する叙位―
 元職員に対し左記のとおり叙位があった。
 記
 (元副館長) 藤田初太郎

正四位に叙する
 平成十八年十二月二十二日付け

職員の退職―

(退職時部局)
 資料提供部 司書 星平 沙希
 平成十九年二月二十八日付け

国立国会図書館の編集・刊行物

レファレンス 六七三号 A4 一五四頁

米国における同盟見直し論議と日米同盟
 非正規雇用の増加と社会保障

労働契約法制定をめぐって

外国人労働者とその家族への医療支援(現地調査報告)

地方自治体の中小企業向け制度融資が直面している課題

我が国の検死制度
 通信産業の競争と規制の在り方
 月刊 税・送料込み 八三三円(有)

カレントアウェアネス 二九一号 A4 二〇頁

図書館サイトの現状 再点検の必要性和危機感の欠如

フィンランドビリティ向上を実現するフォー

クソノミ

次世代の図書館サービス? Librarian y2.0とは何か

〈動向レビュー〉

根拠に基づいた図書館業務の設計 実践家の成果の共有を目指すEBLIPの動向

日本における機関リポジトリの展開 学術情報流通と蓄積の変容

公共図書館のもたらす経済効果
 季刊 四二〇円(日)

全国書誌通信 第一二六号 A4 三六頁

平成一八年度書誌調整連絡会議報告
 団体名標目の選択・形式基準(二〇〇七年版)

国際目録原則覚書(二〇〇六年四月草案)について

IMEICCのための用語集(二〇〇五年版) 翻訳

日本全国書誌 JAPAN/MARC統計
 不定期刊 五二五円(日)

外国の立法 立法情報・翻訳・解説
 第二三一号 A4 一六八頁

特集 外国人問題
 米国における就労目的の外国人の受入れと規制

米国における就労目的の外国人の受入れと規制

- 連合王国市民権の獲得―試験と忠誠の誓い
- ロシアの新しい移民政策と外国人問題
- 韓国の外国人労働者政策と関連法制
- 中国で外国人に永住資格を付与

主要立法（翻訳・解説）

- 米国における個人情報保護の動向―個人情報報窃盗対策を中心に―
- イギリスにおける国民投票運動に対する公的助成制度
- ドイツの国家法規監視委員会法―法規による行政手続事務負担の軽減に向けて―
- ベトナムの国会と立法過程

主要立法（解説）

- 二〇〇二年アメリカ投票支援法の実施状況―電子投票制度導入問題を中心に
- 韓国の基礎自治体議会―女性議員進出元年―

季刊 一、八〇〇円（**紀**）
 (ISBN 4-87582-645-3)

入手のお問い合わせ

- (有)有隣堂印刷(株) 〒140 東京都品川区南品川六丁目一〇〇
 〒140 東京都品川区南品川六丁目一〇〇
 〒140 東京都品川区南品川六丁目一〇〇
- (日)日本図書館協会 〒104 東京都中央区新川一丁目一四
 〒104 東京都中央区新川一丁目一四
 〒104 東京都中央区新川一丁目一四
- (紀)紀伊國屋書店 〒150 東京都渋谷区東三丁目一八
 〒150 東京都渋谷区東三丁目一八
 〒150 東京都渋谷区東三丁目一八

特に記載のないものは税込価格です。

お知らせ

**国際子ども図書館展示会
 「大空を見上げたら―太陽・月・星の本」関連講演会のお知らせ**

国際子ども図書館では、展示会「大空を見上げたら―太陽・月・星の本」に親しんでいただくため、「子ども読書の日」の行事を兼ねて、講演会を開催します。講師は、展示会監修者である国立科学博物館主任研究員西城恵一先生です。展示会と合わせてお楽しみ下さい。展示会、講演会は、いずれも入場無料です。

講演会

日 時 4月22日（日）14：00～
会場 国際子ども図書館 3階ホール
講師 西城 恵一氏
 （当展示会監修者 国立科学博物館理工学研究部主任研究員）
演題 「天文の魅力を探る」
対象 中学生以上 *定員100名
申込方法 直接来館、往復はがき、電子メール ※事前申込制（先着順）
問い合わせ先 国立国会図書館国際子ども図書館企画協力課
 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
 TEL (03) 3827-2053 (代) e-mail moon0422@kodomo.go.jp

展示会のご案内

開催期間 平成19年2月10日（土）～9月9日（日）
休館日 月曜日、こどもの日を除く国民の祝日・休日、資料整理休館日（第三水曜日）
開催期間 9：30～17：00 詳細は国際子ども図書館ホームページ
 (http://www.kodomo.go.jp/) をご覧ください。

お知らせ

NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）に『雑誌記事索引 科学技術編』遡及データ追加

平成19年2月26日に『雑誌記事索引 科学技術編』の1965年から1971年のデータ、約42万件が検索可能となりました。この結果、NDL-OPAC (<http://opac.ndl.go.jp/index.html>) で提供する雑誌記事データは、総計で約781万件となりました。

『雑誌記事索引 科学技術編』は1950年に『雑誌記事索引 自然科学編』の名称で冊子体での刊行を開始しました。これまで、1975年以降のデータはNDL-OPACで検索できましたが、1974年までの約145万件のデータはデータベース化されていませんでした。昨年度に1972年から1974年分のデータ約18万件をNDL-OPACに追加しており、今年度分と合わせて遡及データ約60万件の検索が可能となりました。

今後も遡及入力を継続していく予定です。

お知らせ

NACSIS-ILL 経由・総合目録ネットワーク経由の複写・貸出しの申込中止について

これまでにお知らせしているとおり、平成19年3月末をもってNACSIS-ILL 経由、総合目録ネットワーク経由による複写・貸出しサービスを中止します。

平成19年4月からはNDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）にてお申し込みください。※利用者IDとパスワードを取得している場合は、現時点でもご利用いただけます。

なお、最終受付日は以下のとおりです。

NACSIS-ILL 経由の複写および貸出しのお申し込み—平成19年3月31日

総合目録ネットワーク経由の貸出しのお申し込み—平成19年3月30日

詳しくは、当館ホームページ「NACSIS-ILL 経由・総合目録ネットワーク経由の複写・貸出しの申込中止について」(http://www.ndl.go.jp/jp/library/library_ndlillnews.html) をご覧ください。

NDL-OPACによるお申し込みには利用者IDとパスワードが必要です。利用者IDの取得の有無や申請、ご不明な点は、関西館文献提供課複写貸出係までお問い合わせください。

複写に関するお問い合わせ 0774-98-1313（直通）

利用者登録、貸出しに関するお問い合わせ 0774-98-1312（直通）

お知らせ

電子展示会「近代日本人の肖像」に128人の肖像を追加しました

電子展示会「近代日本人の肖像」は、近代日本の形成に影響のあった人物の肖像を紹介するホームページ上の展示会です。

3月15日、これまで少なかった学者や文化人を中心に、夏目漱石、樋口一葉など128人を追加掲載しました。

これにより、当初から掲載していた政治家、官僚、軍人、実業家等とあわせ、各分野の人物約350人について、肖像をご覧いただけます。また、その人物の著作等が、当館ホームページで提供している「近代デジタルライブラリー」（平成19年2月現在）に収録されている場合は、リンクから資料の画像を見ることができます。」
これまで以上にご活用いただければ幸いです。

URL <http://www.ndl.go.jp/portrait/>



夏目漱石

樋口一葉

野口英世



横山大観

河竹黙阿弥

西周

アクセス方法 国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) のギャラリーに電子展示会への入り口を設けています。

問い合わせ先 国立国会図書館 主題情報部
参考企画課 情報サービス第二係
電話 03-3506-5260 (直通)

お知らせ

新連載がはじまります テーマは主題情報提供サービス

4月から、シリーズ「知識をカタチに—国立国会図書館が目指す『主題情報提供サービス』」の連載を開始します。

現在、国立国会図書館が行っている、主題情報提供事業の現状および展望をわかりやすく紹介します。どうぞご期待ください。

本誌発売元の変更のお知らせ

『国立国会図書館月報』は4月から発売元が変更になります。継続購読をご希望の方、新たに購読をご希望の方にはお申込書を郵送いたしますので、下記宛ご連絡ください。今後ともご愛読くださいますよう、よろしく願いたします。

4月からの発売元

社団法人日本図書館協会

〒104-0033 中央区新川1-11-14

Tel 03-3523-0812 (販売直通) Fax 03-3523-0842

なお、過去3年分の在庫についても日本図書館協会でも取り扱います。

国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

電話 03 (3827) 2053

利用案内 電話 03 (3827) 2069 (音声・FAXサービス)

ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを国際的な連携のもとに行います。

利用できる人 どなたでも利用できます(ただし資料室は満18歳以上の方)。

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は除く)、
年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)

休室日 休館日以外に次の日が休室となります。

2階第一、第二資料室：日曜日

3階本のミュージアム：展示会準備期間

支部東洋文庫

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

電話 03 (3942) 0122 (代表)

東洋学の発展を目的とする専門図書館。

アジア全般にわたる資料・研究書を所蔵しています。

国立国会図書館月報

平成19年3月号 (No.552)

発行所	国立国会図書館	平成19年3月20日発行	定価231円 (税込、送料別)
編集責任者	矢部明宏	発売元	有隣堂印刷株式会社
〒100-8924	東京都千代田区永田町1-10-1	〒140-0004	東京都品川区南品川6-2-10
電話	03 (3581) 2331 (代表)	電話	03 (5479) 8721 (代表)
FAX	03 (3597) 5617	FAX	03 (5479) 8720
E-mail	geppo@ndl.go.jp	E-mail	cap15650@pop01.odn.ne.jp
		印刷所	株式会社丸井工文社

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜すいて転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp> —「刊行物」—「国立国会図書館月報」)でご覧いただけます。

表紙 中性紙使用

本文 中性再生紙使用

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

No. 552 March 2007

CONTENTS

<i>Corpus of the Diet (assembly), decisions, laws and regulations of the Holy Roman Empire</i> (Random notes on rare books, 469)	
Transmission of digital information by the NDL	1
NDL Database Forum	1
Digital library services of the NDL	2
Kenji Uetsuki	
Reports of the NDL Database Forum	6
List of databases introduced in the NDL Database Forum	13
Report of the conference on bibliographic control FY2006	14
Practical workshop for librarians on early Japanese books FY2006	24
General Collections Room reborn ! - rearrangement of the General Collections Room of the Kansai-kan	25

Tidbits of information on NDL	19
Books not commercially available	30
NDL News	32
Monthly official report	33
Publications from NDL	33

< Announcement >	
Announcement of regular exhibition	19
Announcement of the employment examinations for FY2007	20
Lectures related to the exhibition at the International Library of Children's Literature:	
Look up at the Sky: Children's Books on the Sun, Moon, and Stars	34
Retrospective data of the Japanese Periodicals Index (science and technology)	
added to the NDL-OPAC	35
Discontinuance of copying and interlibrary loan services via the NACSIS-ILL and the National Union Catalog Network	35
128 portraits added to the digital exhibition "Portraits of Modern Japanese Historical Figures"	36
A new series "Subject Information Services" will start soon !	36